

豊丘村立豊丘北小学校4学年

「楽しく」学ぶ防災ゲームを作ろう

豊丘北小学校の4年生14名は、総合的な学習の時間を活用して、災害への備えを“楽しく”学ぶための「防災ゲームづくり」に取り組んできました。子どもたちは、過去の災害や地域の地形・危険箇所を調べる中で、「命を守るために自分たちができること」を考え、伝える実践へと活動を展開しています。

自分ごととしての防災学習

学校がある豊丘村は、河岸段丘や急斜面など地形的に自然災害のリスクを抱えています。体育館は避難所として指定されている一方で、土砂災害時に使用できない可能性があることも学びました。実際に大雨や地震のニュースを目にした子どもたちは、防災を“自分のこと”として捉え始めました。

地域の消防士や砂防ボランティアの方々の話を聞きながら、非常持出袋の必要性を理解。その後、信州大学の先生から借りた「なますの学校」という防災ゲームを体験し、「楽しみながら備えることの大切さに気づきました。

伝え方を工夫した校内発信と課題の自覚

前年度のまとめとして、全校集会で○×クイズ形式の防災発表を実施。Googleフォームによるアンケートでも「楽しく学べた」との声が寄せられ、子どもたちはやりがいを感じました。しかし、「インターネットの情報を使っただけでは本当に自分たちのゲームとは言えないのでは」と疑問が残り、今年度は“完全オリジナル”的”のゲームづくりに挑戦することを決意しました。

オリジナル防災ゲーム3種の挑戦

ゲームづくりにあたり、NPO法人プラスアーツの理事長からアドバイスを受け、「伝える工夫」と「楽しさの中の学び」を意識して取り組みました。

- 着せ替えゲームチーム：災害時の服装の正解を考えるクイズ形式で、避難時に適した装備を楽しく覚えられるように設計。水害時の靴の選択を通して「知っているようで知らない」備えを再確認できます。
- カードバトルチーム：災害の種類や非常持出袋の中身をキャラクター化し、HP(ヒットポイント)付きのカードバトルで遊びながら学べるゲームを開発。強い災害カードに対抗する“備えのカード”が勝負のカギです。
- ダンボールリーチーム：水を使わずにできる新しい「バケツリレー」の訓練法を提案。新聞紙とダンボールを使った軽くて安全なリレー方式を考案し、実施のために校内で呼びかけを行いました。



「楽しい」から「伝わる」へ

発表の最後には、「ぼくたちのゲームと一緒にやってみませんか?」という呼びかけも。楽しさの中に命を守る知恵を詰め込んだゲームには、子どもたちの真剣な願いが込められています。今後も地域に広く発信しながら、防災の輪を広げていく予定です。